（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和５年度 学校自己評価システムシート（県立川越総合高等学校）

目指す学校像	多様な学習ニーズに応える学校　～農・食・生活・環境の特性を活かす総合学科～

重点目標	1　学びの基盤となる力を育み、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。 2　基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、自ら人生を切り拓いていける勇気と実行力を身に付けさせる。 3　自己理解と探究学習を充実させ、夢の実現につながる進路決定をさせる。 4　地域と連携した学習活動を推進し、新たな価値を創造する力を身に付けさせる。

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	４名
	生徒	２名
	事務局(教職員)	２名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日 現在）			実施日　令和６年２月８日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 総合学科の特色を活かした授業を実施する中で、生徒は落ち着いて授業を受けている。 【課題】 基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図るため、個別最適な学び・協働的な学びを提供する必要がある。	基礎学力の定着及び学習意欲の喚起に向けた指導方法の工夫・改善	①教員相互における授業観察の機会確保 ②観点別評価実施状況の検証 ③整備端末の有効活用に向けた職員研修会の実施 ④資格取得の推奨と指導の充実	①生徒の授業満足度及び教員による自己評価（アンケート） ②学習改善に向けた評価の活用状況（アンケート） ③整備端末を活用した授業における生徒の満足度（アンケート） ④専門資格等の受検者と合格者の数	①生徒の授業満足度は80.2%、教員の自己評価は79.0%であった。 ②各教科・科目において、評価規準と照らし、生徒の学習の場面を見取る取組を行った。 ③各教科・科目の特性から、活用の頻度に差は生じたものの、Google Workspaceの活用が目立ってきた。 ④英検準2級4名、漢検2級5名、準2級12名、技能国家資格（園芸、フラワー）3級13名、農業技術検定3級27名が合格した。	A	①公開授業を活用し、教員間での授業観察の機会拡充を図るとともに、生徒のニーズに応える授業を研究する。 ②観点別評価の全年次実施に伴い、課題の洗い出しを行う。 ③端末の多様な活用事例が共有できるよう、機会を確保する。 ④上位検定の合格者数を増やすため、家庭学習の定着を図るとともに、農業等専門資格の受検者数を増やす。	・達成度は、Ａとするべき。理由は、生徒の授業満足度が80.2%、教員が79.0%であること。また、検定の取得率も良い。農業技術検定においては37名が合格している。成果が出ている。 ・中学校の先生が、川総を受検して合格すると「すごいね」と褒める。良い意味で入りにくい学校になってきている。入試倍率が高いこと、偏差値が上っていることなどが、中学校で評価されている。 ・アルバイトと家庭学習の時間については、家庭の経済的事情による要因もある。生徒を取り巻く背景も踏まえながら数値を読み解いてもよいと考える。
2	【現状】 礼儀正しく素直な生徒が多い。一部の生徒が教育相談的な指導を必要とする現状である。 【課題】 ポストコロナを踏まえ、新しい生活様式に律した指導の徹底や心の悩みを抱える生徒への指導の充実を図る必要がある。	ポストコロナを踏まえた生活様式の定着及び教育相談的な指導の充実	①基本的な感染防止対策の定着を踏まえた安心・安全な学校づくり ②関係機関と連携した教育相談の体制づくり	①生徒・保護者の学校生活満足度（アンケート） ②教育相談的な視点における生徒の満足度（アンケート）及び教育相談件数	①学校生活満足度は、生徒92.3%、保護者94.9%であった。学級閉鎖7件、学年閉鎖1件を実施したが、校内では感染予防を適宜啓発しながら教育活動を行った。 ②生徒支援の充実度は生徒84.9%、保護者67.9%であった。なお、SC招致は19回、SSW招致は4回行った。	B	①高い満足度が得られる学校を維持するため、健やかな心身の育成と学びを継続できる教育環境の整備に、引き続き取り組む。 ②生徒支援に対する保護者の充実度が下がった。(昨年74.1%)生徒の個別の事案に対する組織的対応の見直しを行う一方で、保護者への説明を十分に果たす必要がある。	・通学している生徒を見ると、楽しそうに生き生きと登校している様子。学校生活が充実していると考えられる。 ・学校は、生徒支援の充実度において、保護者からの数値が67.9%と低いことを意識しているようであるが、生徒の充実度は84.9%と高い。教育は生徒が主人公である。生徒の評価を励みにしてほしい。 ・コロナ禍での経験を生かし、工夫しながら学校運営をされている。引き続き、発展してほしい。
3	【現状】 生徒は総合学科の特性を活かし、多様な進路を実現させている。 【課題】 探究活動の充実から自己理解を促し、主体的に進路選択ができる力やコミュニケーション能力を向上させることが重要である。	主体的な進路選択能力の育成及びコミュニケーション能力を育む指導の充実	①探究活動の充実 ②体験的教育機会の提供 ③組織横断型の取組によるキャリア教育の推進	①探究活動における生徒・教員の満足度（アンケート） ②体験的教育に係る生徒の満足度（アンケート）及び授業における体験学習の実施回数 ③キャリア支援の充実度（アンケート）	①探究活動を含め、総合学科の特色を生かした授業の満足度は、生徒91.2%、保護者87.3%、教員の自己評価は、69.4%であった。 ②体験的教育に係る生徒の満足度は、91.2%だった。また、実験実習を伴う授業は概ね50%の体験学習を行った。 ③キャリア支援の充実度は、生徒88.8%、保護者70.0%であった。	A	①昨年度に続き、教員の自己評価がやや低いものの、生徒・保護者からは高い満足度が得られたことから、現状をベースに充実した探究活動について引き続き研究を行う。 ②農業や家庭の授業の充実や地域連携、ボランティアなど、体験により学ぶ機会を次年度も大切にする。 ③多様な進路希望に次年度も対応するため、分掌・学年の連携強化を図るとともに、教科横断的な指導体制を整備する。	・総合学科の特色を生かした授業の満足度について、教員の自己評価が69.4%と低い。生徒（91.2%）、保護者（87.3%）の結果を踏まえると厳しく回答している。 ・農業学習やボランティアなど、引き続き大事にしてほしい。 ・世界遺産に認定された落ち葉掃き農法について、今年もボランティアに感謝する。森のナラ枯れが進行していることから、ＮＰＯとＦＦＪが連携して森の再生活動に取り組むことを今後期待する。
4	【現状】 学校の特色が地域に理解され、高く評価されている。 【課題】 校内における様々な学習活動が、更に地域から理解されるよう情報発信の工夫や地域と連携して課題解決を図る取組など検討する必要がある。	地域と連携した学習活動の推進及び地域による学校理解の促進	①地域連携による商品開発の実践など生徒の活躍の場の提供 ②ホームページやマスメディア等への積極的な情報発信 ③学校説明会の充実とオンラインの活用	①連携先や開発商品、取組内容などの実績 ②ホームページによる情報発信、マスメディア等による学校紹介の件数 ③学校説明会の参加者数やホームページの閲覧件数、入学希望者数	①市内において校内生産物の取扱企業を確保。目玉商品として試行的に販売する予定。 ②ホームページによる情報発信の満足度は、生徒81.6%、保護者75.9%、教員の自己評価は、95.2%だった。新聞や情報誌への掲載件数は4件だった。 ③学校説明会を5回実施（延べ参加者数1,266人）。また、志願倍率は、10/1現在で1.96倍（昨年1.47倍）12/15現在で1.68倍（昨年1.16倍）	A	①地域の教育力を生徒に還元する観点から、より良い地域連携の在り方について検討を続ける。 ②保護者とのデジタル連絡ツールが確立したことから、その活用を図る。 ③高い志願倍率を維持するため、校内外の説明会における中身や時期・回数について、引き続き研究を続ける。	・川総の良い評判は、地域に出るとよく耳にする。最近は、タマシャモ（県事業を活用した地域振興プロジェクト）のことが飛び交っている。すばらしい活動だと思う。 ・地域全体が、川総をバックアップしている。学校がより良くなるために、我々も協力する。任せてもらいたい。 ・川総は、施設や土地、先輩、人材など、たくさん財産を持っている。歴史もある。学校のために積極的に活用してほしい。